

仏壇を買うと死人が出る？

「仏壇を買えば死人が出る」これは世間でよく言われている俗信の一つですが、先日もある檀家さんに尋ねられました。

檀家「仏壇が古くなったので買い換えようと思っているのですが、親戚の者に、『仏壇を買ったら死人が出るから、やめといた方がええ』と言われ、どうしたもんかと思案しています。住職さん、仏壇を買ったら本当に死人が出るのですか？」

住職「ええ、もちろん出ますよ」

檀家「ああそうですか。やっぱり買うのはやめといた方がいいですね」

住職「ただしね、仏壇を買い替えなくても死人は出るんですよ。仏壇を買ったから死人が出るのではないんです。買おうが買うまいが死人は出ます。遅かれ早かれ……。つまりですね、仏壇を買うという事と死人が出るという事の間に関係はないということです。死ぬのはこの世に生まれたからです。

詳しく言うと、生まれたという「因」が、死ぬという「果」を作るのです。

ここは一つ、親戚の方によく説明されて、後にご自身が買うか買わないかを判断されたらどうですか」

檀家「よく分かりました」

その後、仏壇を買い替えたという連絡は、残念ながらまだ頂いておりません。

この会話のように、私たちはこと宗教（仏教）に関しては、本当に無知だということがよく分かります。

まあ、そうはいつでも、こうした習俗（世間のならわしや俗説）は、当の本人にとれば深刻な問題のようです。

「どうしたらいいのかな？」

「やはり皆の言ってるようにしといた方が、無難かな？」

そんな時は、どうぞ気兼ねなく、お寺にご相談下さい。

ところで、この仏壇ですが、一般には先祖（死者）を祀るところと考えられていますが、そうではありません。

仏壇は、その名が示す通り、「仏さまを安置する壇」です。

つまり、「私の生きる拠り所を、その仏さまの教えに持つ」ということを、形に表したものが仏壇です。

私の生きる拠り所をどこに置くかということですから、極端なことを言えば、「お金」を生きる拠り所に行っている人であれば、一万円札を仏壇に安置（？）して、拝めばいいのです。もちろんそうなると、浄土真宗ではなく拝金宗とでも名前を変えなければなりません。が……。

私たち浄土真宗では、言うまでもなく阿弥陀さまをご安置しています。ですから、「阿弥陀さまの教えを生きる拠り所にします」ということになるのです。

それでは、阿弥陀さまの教えを生きる拠り所にとすると、どんな生き方になるのでしょうか。

それは、「浄土真宗の宗風」に書かれてあるように、「現世祈禱やまじないを行わず、占いなどの迷信にたよらない」という生き方になります。

どうですか？出来ていますか？

実はこの言葉の前に「深く因果の道理をわきまえて」という言葉が書かれています。つまり、迷信や俗信を信じてはいけないのは、「因果の道理に反するから」なのです。ここが大変大事なことなのです。

世に宗教と名のつく団体が、実にたくさんありますが、「この道理に従って生きます」と、鮮明に打ち出しているのは、一人我が浄土真宗だけだと言っても過言ではありません。

他の宗教では、よく先祖の霊が祟ったといっっては、除霊等の祈禱を行いません。  
(注・浄土真宗では霊というものを認めませんので、その言葉は使いません)

何故、霊が祟ったのかというと、「家の中が思わしくいかない」、「どうも不幸が続く」、「次々と病人が出る、怪我人が出る」といったように、人生が思い通りにいってない時に、これはきっと先祖の霊の仕業だと思い込むことがあるのです。そこで「先祖の霊を鎮めて下さい」ということになるのです。

しかしここでよく考えてみて下さい。

因果の道理から言えば、思い通りにならないことが起る(果)のは、誰のせいでもありません、自分の行い(因)によるものです。

ですから、自分の努力不足を棚に上げて、不幸になったのを先祖の霊のせいにするということは当然「因果の道理」に反した生き方になります。

それより何より、あなたが先祖の立場に立った場合を考えてみてください。

自分の可愛い子や孫を「不幸にしてやれ、祟ってやれ」と思いますか。

これ一つ考えただけでも、先祖が祟るなどという事はありませんと思わなければいけません。

不幸を先祖のせいにするなどということは、この上もなく、ご先祖を悲しめる行為なのです。

しかも、浄土真宗では、亡くなった方は、阿弥陀さまのご本願のお力で、直ちに浄土に生まれ仏さまになられているのです。

阿弥陀さまのご本願を頂く(信心=因)ことによって、成仏という「果」が生まれるのです。

仏さまになられたご先祖は「かけがえのないその『いのち』を精一杯か輝かせて、悔いのない幸せな人生を送って下さい」という願いを込めて私たちを護り導いて下さっているのです。

ですから、私たちは、気付こうが気付くまいが、無量無数の仏さまに護られながら人生を送っているのです。

そのことを思えば、私に出来ることは唯一つです。

それは「生かされたこの『いのち』の尊さに目覚め、いかなることに遭っても、他のせいにならず、因果の道理をわきまえて、自分の責任においてこの人生を歩ませて頂く」ということになります。

お釈迦さまは「この世界は因果の道理で動いている。だから、その道理に従って生きなさい」と仰っていますが、まさにこれは万古不易の教えだと思えます。

平成18年4月 「光明寺だより45号」より